



「常に経営者と一緒に歩むコーディネーターでありたい」。盛岡市産業支援センターのインキュベーターマネジャーなどとして、創業支援などを手掛ける関洋一（57）のスタンスは一貫する。企業の「コンサルタント」ではなく「コーディネーター」と名乗るのも、「経営を教えるのではなく、必要な能力を本人から引き出したい」という思いからだ。

岩手県内のベンチャー企業はメーカー出身など「ものづくり」の会社だけではなく、企業向けのメンタルヘルス事業などサービス業の会社を興す人も多い。ただ総務省の事業所・企業統計調査によると、2006年の岩手県の事業所新設率は21・1%で全国平均を1

岩手で創業支援活動

企業コーディネーター 関 洋一さん



せき・よういち 1952年(昭和27年) 岩手県紫波町生まれ。東京理科大学工学部卒業後、日東配電機(現・ニトターハイ)取締役などを経て、98年独立。

経営者と二人二脚めざす

逆下回るなど、他県に比べ創業が盛んであるとはいえない。「夢だけでは会社経営はうまくいかない」と、支援にあたり起業家に綿密な事業計画を作らせる。

だからといって、関は会社を立ち上げようとする人を誰でも支援するわけでは

りものは何かから始まり、地域や立場、年齢、性別など想定される客をタイプごとに細分化し、それぞれの客に何をしたら売ることが出来るかをまとめた図表を作らせる。「計画がきちん

とできないと会社をつくってもうまくいかない」と、問題点があれば厳しく指摘する。関が出す「宿題」に答えられず、相談に来なくなった人もいるという。

岩手工場長として生産が軌道に乗って盛岡中心のサービス業、県北・沿岸は農水産業と各地の経済に特色がある。「地

ない。「夢だけでは会社経営はうまくいかない」と、支援にあたり起業家に綿密な事業計画を作らせる。その会社の製品・商品について、他社とは違つ「売

関は最初から企業の支援に携わっていたわけではなく、大学では電気工学を学んだが「ほとんど授業には出ないでラグビーばかりしていた」。卒業後は商社な

きつぱい」という性格が頭をもたげ始めた。さらに、関は今後も経営者と「二人三脚」で岩手の産業育成に取り組む。

敬称略 水庫弘貴

東北